

速習ノート

最終更新：2023 年 8 月 22 日

目次

1	微分方程式	2
2	量子力学の復習	3

1 微分方程式

今回の微分方程式は

$$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -kx + qE_0 \sin \omega t \quad (1.1)$$

でした。両辺を m で割って

$$\frac{d^2 x}{dt^2} = -\frac{k}{m}x + \frac{qE_0}{m} \sin \omega t \quad (1.2)$$

としておきます。こういう場合、特解（振動数 ω の解）は

$$x(t) = A \sin \omega t \quad (1.3)$$

とおいて探します*1。 (1.2)に代入すると

$$-A\omega^2 \sin \omega t = -\frac{k}{m}A \sin \omega t + \frac{qE_0}{m} \sin \omega t \rightarrow A = \frac{qE_0/m}{(k/m) - \omega^2} \quad (1.4)$$

となるので、特解は

$$x(t) = \frac{qE_0/m}{(k/m) - \omega^2} \sin \omega t \quad (1.5)$$

です。ここで、 $\omega_0 \equiv \sqrt{k/m}$ が共振振動数で、 $\omega \sim \omega_0$ で $x(t)$ がすごい振動します。

こんな感じで特解を出します。ちょっと院試に出そうな問題をピックアップしておきます。

演習問題 1: 非斉次微分方程式

次の微分方程式の特解を求めよ。

- (1) $\frac{d^2 x}{dt^2} + 2\frac{dx}{dt} - 3x = e^{2t}$ ^a
- (2) $\frac{d^2 x}{dt^2} + 2\gamma\frac{dx}{dt} + \omega_0^2 x = f \sin \omega t$ ^b (減衰振動。今日のよりもちっと難しい。)

^a 参考: https://www.geisya.or.jp/~mwm48961/kou3/differ_eq3.htm

^b 参考: <http://www.asem.kyushu-u.ac.jp/qq/qq02/kikanbuturi/chap6.pdf>

解答

- (1) こういうのは $x(t) = Ae^{2t}$ として A を決めます。代入すると $A = 1/5$ となるので、特解は

$$x(t) = \frac{1}{5}e^{2t} \quad (1.6)$$

です。(計算してみると、なんでこのようにおけばよいのか分かるかも。)

- (2) ワンチャン力学で出るかもと思って出しておきました。知ってたらごめん。今回の東大のケースと同じように $x(t) = A \sin \omega t$ とおけばうまくいくと思いきや、これだとダメです。今回は

$$x(t) = A \cos \omega t + B \sin \omega t \quad (1.7)$$

*1 定数変化法でも見つけれないわけではないと思うけど、あまり見たことがない気がする。多分こっちのほうがラクだから。

として, A, B を求めます. 計算は省略しますが, 答えは

$$A = \frac{-2\gamma\omega f}{(\omega_0^2 - \omega^2)^2 + (2\gamma\omega)^2}, \quad B = \frac{(\omega_0^2 - \omega^2)f}{(\omega_0^2 - \omega^2)^2 + (2\gamma\omega)^2} \quad (1.8)$$

です*2.

2 量子力学の復習

今日, 電車で言っていた話.

演習問題 2: 波動関数の問題

- (1) $\langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle$ を求めよ. ただし, 規格化はしなくてよい.
 (2) 今回の問題を復習する. つまり, $\psi(q, t) \equiv \langle q | \psi(t) \rangle$ を求めよ. ただし, 前問で

$$\hat{p} | (r, \phi) \rangle = \alpha(r, \phi) \hat{q} | (r, \phi) \rangle, \quad | \psi(t) \rangle = | (t, -\pi/4) \rangle \quad (2.1)$$

を示していたので, これは用いてもよい.

解答

- (1) こういうのは大体 $\langle \mathbf{p} | \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{q} \rangle$ を計算する. $\hat{\mathbf{p}}$ が $|\mathbf{q}\rangle$ に作用すると思えば

$$\langle \mathbf{p} | \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{q} \rangle = -i\hbar \frac{\partial}{\partial \mathbf{q}} \langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle \quad (2.2)$$

となり, 一方で $\langle \mathbf{p} |$ に $\hat{\mathbf{p}}$ が作用すると思えば

$$\langle \mathbf{p} | \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{q} \rangle = \mathbf{p} \langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle \quad (2.3)$$

です. よって, (2.2) と (2.3) を合わせれば

$$-i\hbar \frac{\partial}{\partial \mathbf{q}} \langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle = \mathbf{p} \langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle \quad (2.4)$$

という微分方程式になりますが, これは

$$\frac{1}{\langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle} \frac{\partial}{\partial \mathbf{q}} \langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle = \frac{i}{\hbar} \mathbf{p} \quad (2.5)$$

より

$$\langle \mathbf{p} | \mathbf{q} \rangle = e^{i\mathbf{q} \cdot \mathbf{p} / \hbar} \quad (2.6)$$

と解けます*3.

- (2) おなじじ感じです. $r = t, \phi = -\pi/4$ であることに注意すれば

$$\langle q | \hat{p} | (t, -\pi/4) \rangle \quad (2.7)$$

*2 実は複素数でやるとチョットだけラクになるけど, こっちのほうが直感的で嬉しい.

*3 「 \mathbf{q} の微分って?」と思ったら, とりあえず1次元で考えると分かりやすいかも?

を2通りで計算すればいいです． \hat{p} が $\langle q|$ に作用すると思えば，

$$\langle q|\hat{p}|(t, -\pi/4)\rangle = -i\hbar \frac{\partial}{\partial q} \psi(q, t) \quad (2.8)$$

で， \hat{p} が $|(t, -\pi/4)\rangle$ に作用すると思えば，前問で求めた公式を用いて，

$$\langle q|\hat{p}|(t, -\pi/4)\rangle = \alpha(t, -\pi/4) \langle q|\hat{q}|(t, -\pi/4)\rangle = \alpha(t, -\pi/4) q \psi(q, t) \quad (2.9)$$

となります．よって，微分方程式は

$$-i\hbar \frac{\partial}{\partial q} \psi(q, t) = \alpha(t, -\pi/4) q \psi(q, t) \quad (2.10)$$

なので，これを解くと

$$\psi(q, t) = \exp \left[i \frac{\alpha(t, -\pi/4) q^2}{2\hbar} \right] \quad (2.11)$$

がたぶん答えです．

俺は先に夏休み満喫してます．あと少し，がんばって!!